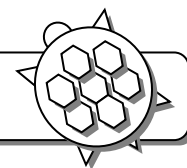


亀さん通信

紅葉が美しい今日この頃、いかがお過ごしでしょうか！

亀のように歩みは遅くとも、『お金力』をしっかりと・確実に身に付けていただく【亀さん通信】第 122 号発信！

アベノミクスは成功したのか？



安倍首相は今日 21 日に衆院の解散を宣言。2015 年 10 月に予定していた消費税率 10% への引き上げを 2017 年 4 月に先送りし、「成長戦略を前に進めるべきか国民の皆さんの判断を仰ぐ」と述べ、自ら「アベノミクス解散」と位置づけました。今回の選挙は、**日本の行く末を決める大きな分かれ道**になりそうです。

まずは復習から。「アベノミクス」は、日本経済を長年苦しめてきた「**デフレからの脱却**」と「**富の拡大（持続的な経済成長）**」を目指す経済政策をいいます。要するに「**インフレ**」を起こそうというわけです。インフレとは、物の価格が継続的に上がることであり、反対に物の価格が継続的に下がることをデフレといいます。

なぜデフレは好ましくないのか。それは**消費が冷え込む**からです。例えば、今ある商品が 5 万円で売っていても、「来年は 4 万円になるかも」と思う人が出てきます。デフレ時は時間が経つにつれて価格が下がるから。そのため消費が行われず、景気が悪くなってしまうのです。一方、「インフレにする」と喚起することで、「今は 5 万円だけど来年は 6 万円になっているかも」と人々に思わせれば、**消費が行われ景気が良くなる**と安倍政権は考えているわけです。では、その具体策である「三本の矢」を見ていきましょう。

■第一の矢 【大胆な金融政策】

どうやってインフレを起こすのか。インフレとは物の価格が上がることなので、裏を返せば、**お金の価値が下がる**ことを意味します。よって、**大規模な金融緩和**により日本銀行が市場に出回るお金の量を増やせば、理論上はインフレになります。しかし、企業の消費である設備投資などが行われたとしても、すぐにお金を回収できるわけではありません。そこで、第二の矢の登場です。

■第二の矢 【機動的な財政政策】

この政策は企業が利益を増やせるようになるための短期的な処置であり、具体的には**公共事業**が挙げられます。ただ、国の財政は無尽蔵ではなく、いつまでも大規模な公共事業を続けられるわけではありません。早く企業がお金を稼げるようになって、民間を中心に経済が回っていかないと国の財政が破綻してしまいます。そこで出てくるのが、第三の矢です。

■第三の矢 【民間投資を喚起する成長戦略】

この第三の矢が**本当の勝負どころ**。今後、日本の企業が成長し続けることができるか、といった部分を左右する重要な局面です。例えば、規制緩和をしたり、雇用制度を改革したり、ベンチャー企業を支援したり、など様々な戦略があります。財政政策が短期的な処置とすれば、成長戦略は**長期的な処置**といえます。この戦略が功を奏し、国民の生活が豊かになることを安倍政権は目指しています。

この 2 年を振り返れば、アベノミクスの第一の矢は円安・株高を演出し、第二の矢は景気の下支えに一定の効果を発揮しました。しかし、デフレからの脱却を確実にし、日本経済を成長軌道に乗せるための成長戦略は道半ばとの印象は免れないのも事実。今後 2 年半で本当に**消費税率 10% に引き上げ可能な経済環境に好転**できるのか。アベノミクスの真価が問われています。

安倍政権の発足は 2012 年 12 月 26 日。同政権の経済政策の一枚看板であるアベノミクスも、スタートからすでに 2 年の歳月が経過しています。私たち有権者は、**成否の審判を下すまでに十分な猶予を与えた**といっているのでしょうか。この段階で、消費増税の先送り、GDP の伸び率が四半期ベースで 2 期連続のマイナスに陥ったという結果に、**あなたはどのような評価を下しますか？**

消費増税の先送りを逆手にとって、選挙向けの手柄として演出する安倍政権の術中にはまらないでください。断っておきますが、今号は同政権を非難しているわけではないので念の為。クリアな状態で各党の政策を傾聴し、あなたの一票を投じてください。

今回の選挙では国民の血税が 700 億円も使われます…

(株)亀山保険事務所 亀山裕弘 (ミルロ) 1 級ファイナンシャル・プランニング 技能士 0575-28-2768 info@kameyama-hoken.com